

第 2 部 基本構想

第2部 基本構想

1 まちづくりの視点

本市のこれからのまちづくりを効果的に進めるため、次の3つの視点を持って取り組みます。

視点1

みんなでつくり、共に進めるまちづくり

《市民協働、公民連携等》

まちづくりは行政のみが担うものではありません。市民や企業の主体的な参画のもとに地域課題を解決し、地域をより暮らしやすく、住み続けたいと思えるまちづくりが必要です。これまでも多様な市民活動や民間による開発などにより、いまの泉南市が形成されてきました。

泉南市に関わるすべての人びとが、それぞれの役割と責務を認識・尊重することで、あらゆる機会を通じて市民協働や企業など民間との公民連携が行われる「みんなでつくり、共に進めるまちづくり」を展開していきます。



視点2

地域資源の力を引き出すまちづくり

《人、自然、歴史、文化、産業、観光等》

これまでの泉南市の発展や成長には、関西国際空港やりんくうタウンの整備、住宅団地の開発などが貢献してきました。人口が減少に転じている中で、まちの活力を維持していくためには、これまでの成果を活用しながら、あらためて自らの有形無形の財産や特徴を見つめなおし、独自の魅力として磨きあげていくことが重要です。

泉南市に住む人・働く人・学ぶ人などの「人財」をはじめ、自然・風土、歴史・文化、産業、観光など、足元の地域資源の力を見極め、これらを有機的に結びつけながら、「地域資源の力を引き出すまちづくり」を展開していきます。



視点3

新しい時代を見据えたまちづくり

《ポストコロナ、DX、SDGs、脱炭素等》

新型コロナウイルス感染症の拡大により、経済活動や個人の行動・価値観が変容し、テレワークやオンライン授業など、あらゆる場面でデジタルトランスフォーメーション（DX）が加速するなど、先端技術の活用が進んでいます。泉南市においてもこうした機運を捉え、官民共に効率的・効果的なまちづくりにつなげる必要があります。また、地球環境への配慮は国際社会共通の責務となっており、海・山の自然に恵まれた泉南市においても、先人から受け継がれてきた大切な資源を守り、いかすため、身近な暮らし方から改善を図っていく必要があります。

ポストコロナ社会への対応や、DXの推進による生活利便性や産業における生産性の向上、SDGsや脱炭素の実現に向けた取組など、「新しい時代を見据えたまちづくり」による、持続可能な地域社会の構築を展開していきます。



2 目指すべき将来像

(1) まちづくりの軸

市民や企業、関係機関、行政等まちづくりの担い手が共有できるまちづくりの軸と本市が目指すべき10年後の将来像を次の通り設定します。



これからの泉南市が 目指すまちづくりの軸

人口減少・少子高齢化が進む中で、これからのまちづくりにおいては、人口増加を目指すことを前提とした取組は効果的とは言えません。そのため、住んでいる人の幸せを最大限に高めるとともに、時代に合わせた改革で次代に引き継ぐことができる強くしなやかなまちづくりを念頭に置き、コンパクトシティ化や学校再編、公共施設の削減等、人口構造に合わせたまちづくりや、公民連携や先端技術の活用等、時流に即したまちづくりを進めることで、市民の暮らしの満足度が高い、「住み続けたい」と思えるまちを目指します。

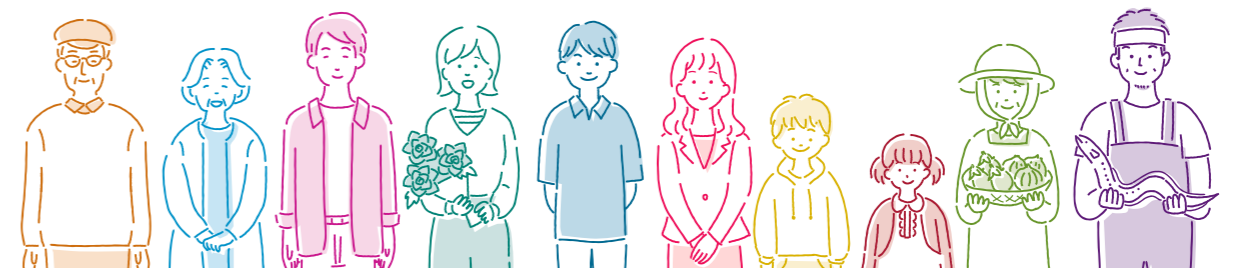
また、関西国際空港のゲートウェイという立地をいかし、企業誘致や投資を促進するなど経済活動の好循環の実現を目指すとともに、泉南市の魅力を積極的に市内外に発信していくことで、持続可能なまちを目指します。



(2) 10年後の将来像



かんじる つながる ひろがる
住人十色のまち せんなん



第6次泉南市総合計画では、本市に関わるすべての人がそれぞれにとっての幸せをみつけられるような、笑顔あふれるまちづくりを進めます。

「こんなところがあったんや」、「こんなことやってるんや」、「こんな人がいてるんや」=「ちよっとええやん なかなかええやん」と気づき、感じることで「泉南市っていいまちかも」というまちへの親しみや希望が生まれます。そして、本市を愛する人が集い、つながることで、また新たな「ええやん」が生まれます。

そんな「ええやん」がまちじゅうにあふれ、さらにひろがってほしい。市民や訪れた人が「ええやん」と感じる本市の海、山等の自然からの恵みや、人のやさしさやぬくもり、さらには新たな魅力を創出し、磨きあげることで、誰もが自分にとっての幸せを選べるまちにしたい。

10年後、20年後には「めっちゃええやん」と自信を持って言えるまちになることを目指し、本計画における将来像を「ちよっとええやん なかなかええやん ~かんじる つながる ひろがる 住人十色のまち せんなん~」とします。

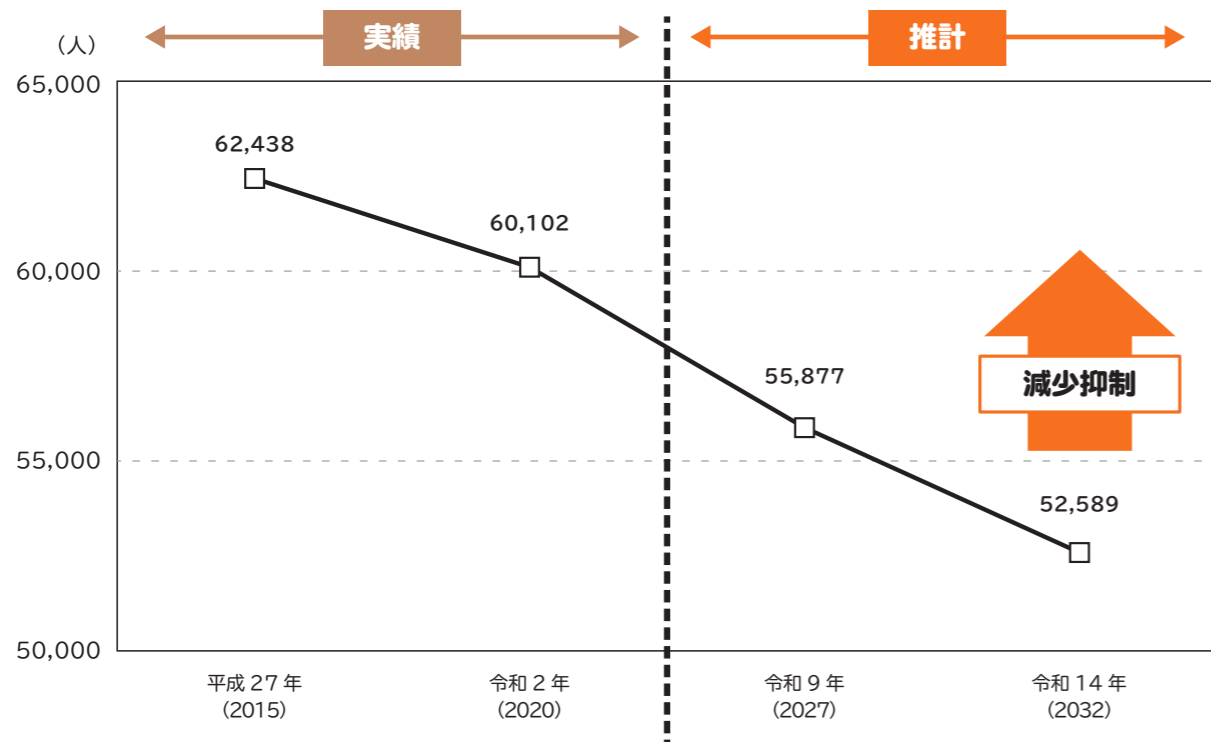
(3) 人口フレーム

まちの活力や規模を表す基本となる人口フレームについて、次の通り設定します。

定住人口の見通し

人口減少、少子高齢化が続く中、本計画の最終年度となる令和 14（2032）年の総人口は約 5.26 万人となることが推計されています。

本計画に基づく取組の推進により、出生率の向上や若年層の転出超過を改善することで、できるかぎり人口減少を緩やかにしていくとともに、人口が減少したとしても、誰もが住み慣れた地域での生活を継続できるまちづくりに取り組みます。

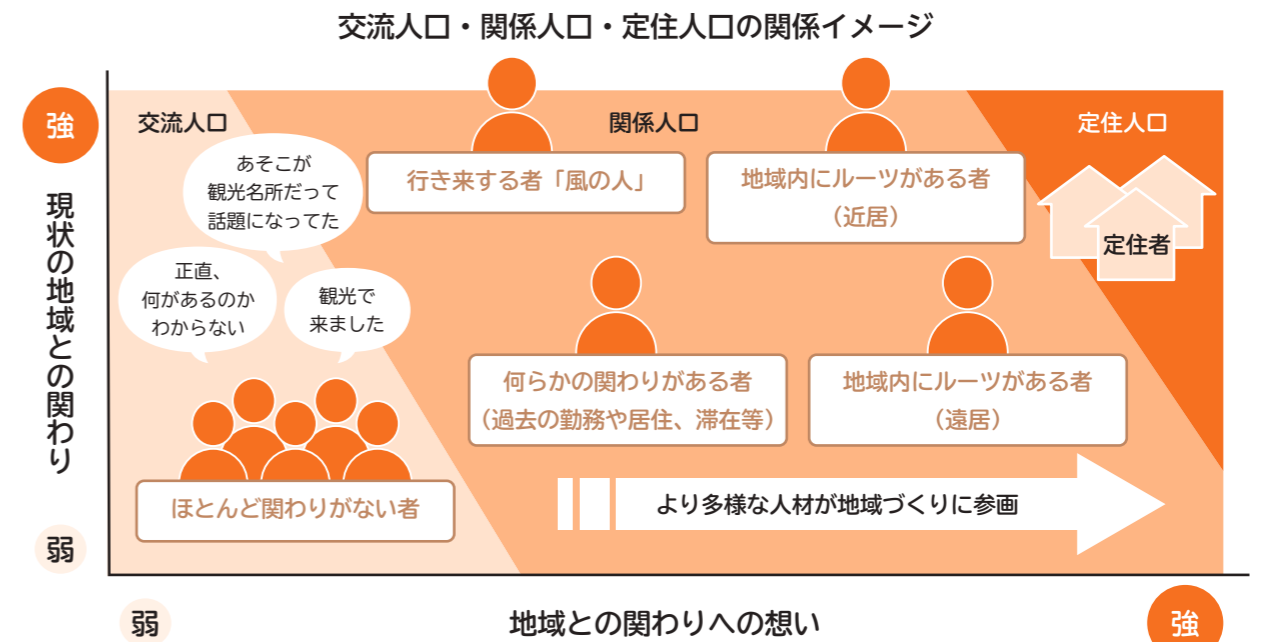


資料：国立社会保障・人口問題研究所『日本の地域別将来推計人口』（平成 30（2018）年推計）より算出

交流人口・関係人口から定住人口へ

① 交流人口・関係人口の考え方

「交流人口」は通勤・通学や観光による来訪者のことであり、「関係人口」は市外に住む出身者や本市のまちづくりに協働・賛同する人、市内で活動する人等、地域と多様に関わる人びとのことです。人口減少が進む本市においても担い手不足を補い、まちづくりに変化を生み出す地域外の人材として期待されます。



資料：総務省『関係人口ポータルサイト』

② まちの好循環の創出

本市では、将来的な定住人口の減少が避けられない状況が見込まれており、まちの活力が失われてしまうことが懸念されます。そのため、できるかぎり人口減少のスピードを緩め、定住人口を維持していく取組が必要です。

産業やレジャー等まちの魅力を高め、交流人口・関係人口を増やすことでにぎわいの創出につなげ、財源を確保します。さらにその財源を活用し、必要な政策を実施することで住民サービスを向上し、住んでいる人の満足度を高め、定住人口を維持することを目指します。

人口フレームからのまちの好循環のイメージ



(4) まちの構造

目指すべき将来像を実現するためのまちの構造のあり方について、次の通り設定します。

将来都市構造

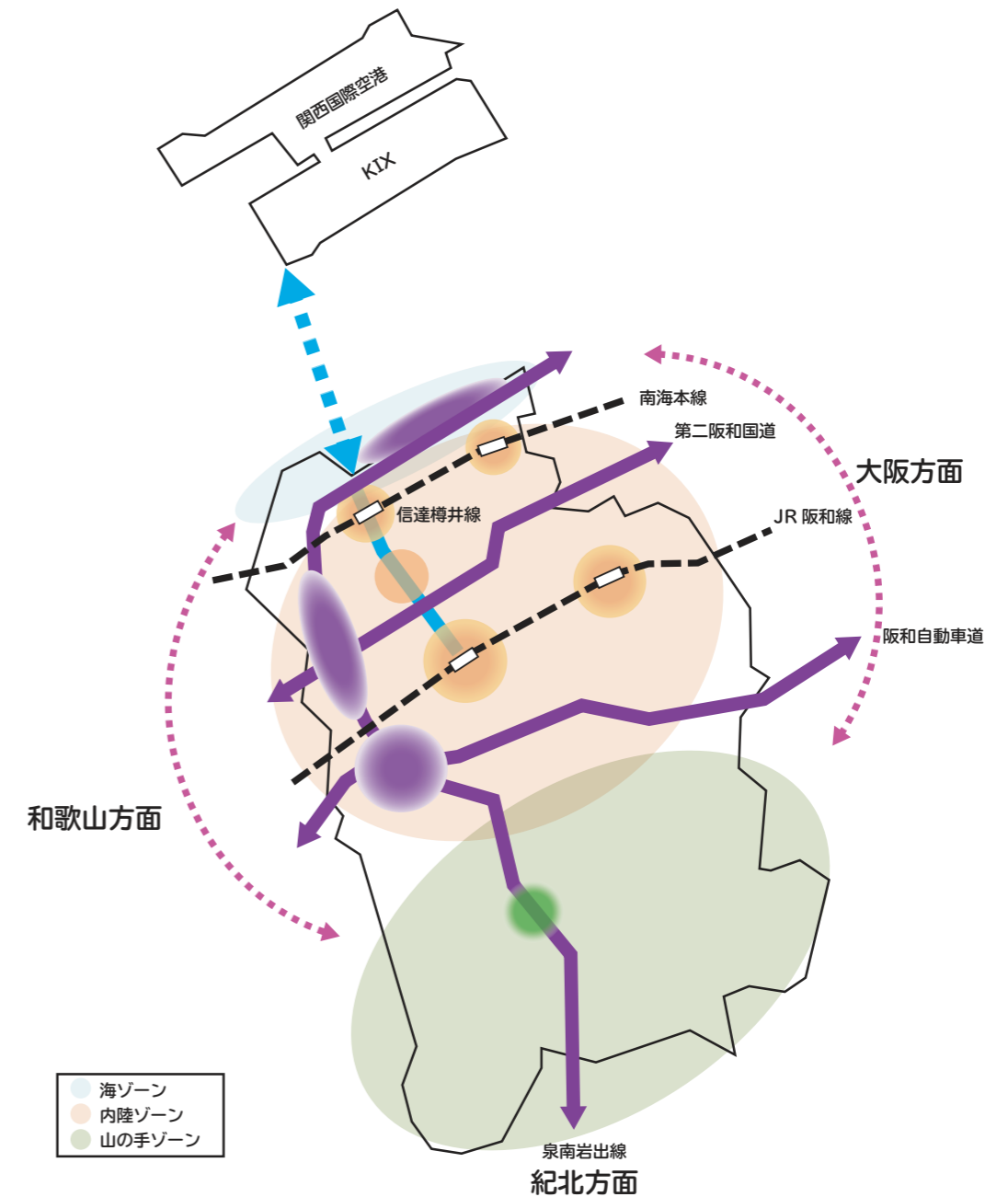
連携型集約都市 ～「住まう・楽しむ・働く」～

■ 都市近郊の農地や歴史的資源等、地域の資源を保全・活用しながら、4つの鉄道駅や市役所周辺を核として公共施設等の適正化を図り、都市機能や居住を誘導するとともに、自然環境と多様な都市機能が調和した土地利用により、利便性の高いコンパクトな都市構造を形成します。また、山麓部においては、将来にわたり持続的に集落で生活できるよう小さな拠点を形成することにより、公民連携を活用した持続可能な連携型集約都市「住まう・楽しむ・働く」の実現を目指します。

■ 都市核・拠点を結ぶ中心都市軸により、りんくうタウンや関西国際空港といった臨海部と山麓部の連携・交流を図ることで、まち全体を循環させ、市域全体ににぎわいを創出し、さらには、第二阪和国道（国道26号）、泉佐野岩出線や阪和自動車道といった広域交流軸により、人とももの大きな流れを呼び込むための取組を推進することで、広域的な結節点としての発展を推進します。



将来都市構造図（イメージ）



まちの構造

連携型集約都市 ～「住まう・楽しむ・働く」～

- | | | |
|--|------------|--|
| | ● 中心都市軸 | 海・山アクセス 都市核・拠点を結ぶ市の骨格 |
| | ● 広域交流軸 | 都市間アクセス（広域的結節点の発展）
道路沿道（IC周辺を含む）の土地利用の適切な誘導 |
| | ● まち全体の循環 | 臨海部と山麓部の交流ループ（地域活性化） |
| | ● コンパクトシティ | 都市機能及び居住の誘導 |
| | ● 小さな拠点 | 集落生活圏の維持 |
| | ● 公民連携 | 民間活力導入によるまちづくり（公共施設再編等） |

3 まちづくりの方向

まちづくりの分野別の取組の方向となる分野別政策と、分野別のまちづくりを的確に、より効果的に進めるための全体に関わる総合的政策を位置づけます。

分野別政策 1

『ひと』を育てる・輝かせる

- 性別や年齢、国籍等を問わず、誰もが個性と能力を発揮しながら、共に暮らし、活躍できる人権尊重・平和・多文化共生のまちづくりを推進します。
- あらゆる分野で男女平等参画の理念に基づく取組を進め、家庭や職場、地域における理解を浸透するとともに、男女共に活躍できる地域社会づくりを推進します。
- 子どもの健やかな成長と子育て家庭を支えるため、安心して子育てできる環境づくりとともに、就学前における教育・保育環境の充実に取り組みます。
- 子どもが、確かな学力とたくましく生きる力を身につけられるよう、家庭、地域、学校、行政が連携した地域ぐるみの学校づくりに取り組みるとともに、生まれ育った地域に愛着、誇りを持つ子どもの育成に取り組みます。
- 生涯学習の充実や子どもから高齢者まで誰もがスポーツに親しむことができる環境づくり、家庭や地域の見守りや支援を通じた青少年の健全な成長を促進し、市民の生きがいや健康づくりにつなげるとともに、学びや活動の成果をまちづくりに還元できる人材育成や仕組づくりを推進します。
- 歴史・文化をいかしたまちづくりを通じ、文化の質が高い地域づくりを行い、ふるさとや地域への愛着、誇りを持つことができる市民の育成に取り組みます。



関連する施策

施策 1 人権尊重・平和・多文化共生

施策 2 男女平等参画・女性活躍

施策 3 子育て支援

施策 4 就学前教育・学校教育

施策 5 生涯学習・スポーツ・青少年健全育成

施策 6 歴史・文化

分野別政策 2

『しごと』を生み出す・にぎわいを創出する

- 地産地消や地域ブランドの推進、6次産業化[※]等による新たな商品やビジネスの創出に向けた仕組の構築等、農業・漁業の振興に取り組みます。
- 広域的な交通アクセス等の立地をいかした企業誘致や市内事業者への支援の充実により、商工業の振興に取り組みます。
- 豊かな海・山等の自然や歴史文化を地域資源として活用した泉南市ならではの観光サービスや商品開発等を通じ、関係人口・交流人口の拡大に取り組みます。
- 農業・漁業、商工業、観光の振興により、雇用の場の充実に取り組みます。

関連する施策

施策 7 農業・漁業

施策 8 商工業

施策 9 観光

施策 10 雇用

分野別政策 3

『くらし』を守る・快適にする

- 今後発生が懸念される大規模地震や津波、豪雨等の自然災害に対し、防災・危機管理体制の充実や地域における防災力の向上に取り組みます。
- 多様化・凶悪化する犯罪や消費者トラブル、交通事故等から一人ひとりの生命と暮らしを守るため、市民、地域、行政の連携による安全・安心なまちづくりを推進します。
- 本市の豊かな自然を守りながら、「2050年のカーボンニュートラル」を視野に入れた地球温暖化対策やエネルギー対策、ごみの減量化等、環境負荷の少ない循環型社会の構築に取り組みます。
- 市民生活に身近な道路の計画的な整備や、地域の特性に合った公共交通の維持・発展に取り組みます。
- 下水道等、生活基盤の強靱化や維持管理を計画的・効率的に進め、利便性が高い住まいの環境整備に取り組みます。

関連する施策

施策 11 防災

施策 12 防犯・交通安全・消費者トラブル対策

施策 13 環境保全・脱炭素・エネルギー

施策 14 道路・交通

施策 15 下水道・生活環境・住まい

※6次産業化：第1次産業としての農林漁業と第2次産業としての製造業、第3次産業としての小売業等を総合的かつ一体的な推進を図り、新たな付加価値を生み出す取組

分野別政策 4

『健幸』を築く・つながりをひろげる

- 保健・医療・福祉の連携の推進等により、市民が健康増進に主体的に取り組めるよう支援を行い、生活習慣病やがん等の予防や早期発見ができ、医療が受けられる医療体制の充実に取り組みます。
- 生活困窮者に対する支援や、高齢者、障害のある人への生活支援・福祉サービス等、支援を必要とする人が適切なサービスや制度を利用できる体制づくりに取り組みます。
- 市民が生涯を通じて健やかに暮らすことができ、支援が必要になっても住み慣れた地域で自分らしく暮らせるよう、地域包括ケアシステムの充実等による地域共生社会の実現に取り組みます。
- 障害のある人やその家族が、地域の中で安心して生活を送ることができるよう、ユニバーサルデザインによるまちづくりや就労支援等の充実に取り組みます。



関連する施策

施策 16 医療・健康

施策 18 高齢者福祉

施策 17 地域福祉・困窮者対策

施策 19 障害福祉



総合的政策

『しくみ』をつくる・運営する

- 地域コミュニティ機能の低下や市民ニーズの多様化・高度化が進んでおり、個人の努力や行政だけの取組ではなく、あらゆる分野で市民、地域、事業者（企業）、団体等、多様な主体と行政の協働によるまちづくりを推進します。
- 市内外の人々が定住したいと思える魅力を高めるとともに、市民のまちへの愛着や誇り（シビックプライド）等を醸成し、効果的に発信することで「選ばれるまち」としてのシティプロモーションの充実に取り組みます。
- 先端技術をまちづくりに取り入れながら、デジタル人材の育成・確保や、デジタルトランスフォーメーション（DX）を進め、誰もが暮らしやすく、便利で安全・安心なデジタル社会の実現に取り組みます。
- 安定的な財源確保や、効率的・効果的な行財政運営に努めるとともに、近隣市町との連携を検討しながら、行政の広域化に取り組みます。



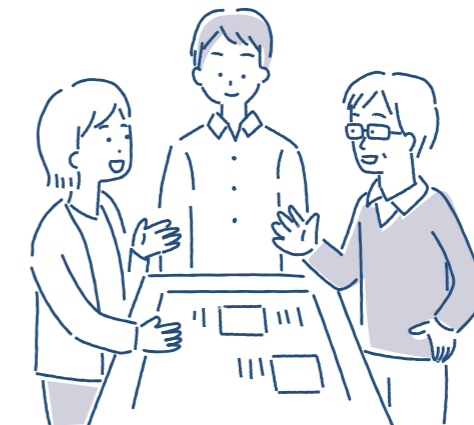
関連する施策

施策 20 協働・コミュニティ

施策 22 情報政策（DX）

施策 21 シティプロモーション

施策 23 行財政運営



計画の全体構成



第3部 基本計画